

中国の為替制度変更と市場動向について

ニッセイアセットマネジメント(株)

昨日 21 日(木)、中国人民銀行(中央銀行)はこれまでの人民元を事実上米ドルに固定させてきた「通貨ペッグ制度」を廃止し、複数通貨からなる「通貨バスケット」を参照した管理フロート制(固定為替相場制と変動為替相場制との中間的な制度)への移行を発表しました。

【為替制度変更の要旨】

- ・人民元は7月21日午後7時(現地時間)に1米ドル=8.11 元に設定され(実質 2.1%の元切り上げ)、一日の為替変動幅はこの中心レートを挟んで±0.3%以内に留める。
- ・毎営業日終了後に為替レートの終値を公表し、翌営業日の売買の中間レートとする。
(対米ドルでの変動幅±0.3%以内は引き続き維持)
- ・通貨バスケットに含まれる米ドル以外の対象通貨やその構成比は非公表とし、その通貨に対する変動幅は一定枠内に留める。

【市場動向】

外国為替(ドル・円):

昨日日本時間に112円台半ばで推移していたドル・円は、中国の為替制度変更発表と同時にドル安・円高へ転じ、一時109.88円まで円高が進みました。

本日10時現在では、111円近辺で推移しています。

米国金利:

「通貨バスケット制」への移行に伴い、中国の外貨準備による米国債買入れが減少するとの思惑や、人民元切り上げが中国からの輸入製品価格上昇に繋がりがねないとの観測から、米長期金利は上昇しました。

ドル・円(TTM:東京三菱銀行対顧客電信為替相場仲値)、米国国債金利の推移

日付(東京時間)	7/21(木)	7/22(金)	差異
ドル・円(TTM)	112.55	111.02	1.53

円高

日付(米国時間)	7/20(水)	7/21(木)	差異
米国国債(10年)	4.16%	4.28%	+0.12%

金利上昇 = 債券価格は下落

当資料は、ファンドに関する参考データをご提供する目的で作成したもので、投資信託の勧誘を目的とするものではありません。当資料の内容は、2005年7月22日における当社の判断ですが、将来の成果や利回り等を保証するものではありません。投資信託はリスクを含む商品です。運用実績は市場環境等により変動し、運用成果(損益)は全て投資家の皆様のもとなります。元本および分配金が保証された商品ではありません。投資信託は保険契約や金融機関の預金と異なり、保険契約者保護機構、預金保険の対象とはなりません。証券会社以外の金融機関で購入された投資信託は、投資者保護基金の支払い対象にはなりません。取得の申込みにあたっては投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずファンドの仕組みやリスク等の内容をご確認の上、ご自身でご判断下さい。

< 審査確認番号 H17_0692 >

【為替制度変更が市場に与える影響(市場の見方)】

外国為替(ドル・円):

新制度の下では、中国人民銀行は対ドルで日々0.3%ずつ人民元を切り上げることができるため、今後も人民元に対する先高観測が継続し、これが円高圧力につながりやすい状況も考えられます。しかしながら、中国人民銀行は中国国内経済への配慮から、急速かつ大幅な人民元切り上げは回避するものと予想されます。また、105円に接近するような円高局面では、輸出企業の業績への影響を考慮して、日本の通貨当局が介入に踏み切る可能性も考えられます。

したがって、**目先大幅なドル安・円高局面となる可能性は低いと予想されています。**

米国金利:

主に中国の外貨準備が米ドル以外に分散されるとの思惑から長期金利が上昇しましたが、これまで既に中国人民銀行は外貨準備の分散に着手していたとも考えられます。

対米ドルの変動幅を一定幅に留めるためには、今後もある程度の為替介入継続が必要となるため、**今回の中国為替制度改革が米国債券市場に与える影響は、非常に大きいものになるとは予想されていません。**

以上